

刊夕日三十月六

常警日新聞

定価 一月五元 三月十五元 半年三十元 一年六十元
 発行所 常警日新聞社
 印刷所 常警日新聞社

統制経済は是非か

【二】



だから、斯うした由來から、自由経済を捨て、統制経済に移るのも時世時節なら致方あるまい。だが、總てが統制経済に移つてしまつた後の世態は、果して如何なるものかを今において一應考へて見る必要がある。さうすると、そこに現はれて来るものは差詰め全國民の経済生活に對して全智全能の神様たるべき経済參謀本部であり、又それと同時に其國の全経済生活に對して全權を掌握すること王様の如き経済指導本部であらねばならぬ。幸にしてそれが豫期する如き神様であり王様であるならば、それから先きは内部に對する一切の需給が過不足なく常に投合さるゝことであらう。さすれば又それから先きは生産過剰がなくなり、恐慌がなくなり、或は不景氣がなくなるかも知れぬ、だがさうなつてからの斯國民には、同時に創造がない、活躍を許されぬ。獨創がない、突進は許されぬ。皆が皆揃ひの浴衣を着て、型通りの盆踊をやるのは宜いが、い

つまでも揃ひの着物で人々が満足するだらうか。二年三年の兵營生活ならイヤ知らず、兵役時代と同じ均等生活、兵役時代と同じやうにいづ迄も上官の命に絶對服従して経済行動を爲すより外ないのでは、その消費生活すら果して楽しき人生と謂はるゝものかどうか。將又その生産状態が果して理想の社會と呼はるゝ形であるかどうか。世の經濟參謀本部乃至經濟指導本部論者はこゝの道理を篤と考へるが宜い。

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

【朝】清汁 わかめ 小皿 やきのり

【晝】煮付 がんもどきか 煮 漬焼き 小井 じゃが芋 粉ふき芋

今の世の學者先生は、往々我國の現状を以て生産と消費、需要と供給の一大懸隔にあるものと観る。そしてその觀念から日本主義も亦現に行詰りの状態にあるものだといふ。果してそうであらうか。日本橋の下の水がテームス河の水に通じてゐるからには、我國も亦世界の風波の外に立つとは

不二タクシ

電話 32番

めないのである。以上の道理と事情の相違を考へたならば、歐洲大戰後の跡始末に苦しみ抜く西洋諸國が、皆それと統制経済に趨るからとて我國も亦之に倣つて、後から追ひ付かうとするのは果して眞に國を興す所以であらうか。世の統制經濟論者たるもの一應も二應も國情と全局の利害を考慮す可きであらう

外科 専門

木村外科醫院

花柳病科

自炊入院の便あり

電話 三〇九番

平町六丁目橋際

具雨とケヨヒ

敷島のヒヨケ如何にと人とおぼ

日	除	雨	具
店舗用、事務所用 御座敷用、其ノ他	トラツク用、各種雨衣 作業用、馬車用シート		

朝日夕日に便利なるかな

除日・覆雨諸・幕天山登

店商トンテ鳥敷

日丁六町平

初夏の松ヶ岡

さみだれ上り 浅みどり
衣更えした 遅咲きつゝじ
赤い手からで 松ヶ岡
招きますぞへ 春木亭

入浴のサービスもあります
日の丸辨當御持参をも歓迎

松ヶ岡公園 春木亭

電話 五一八番

市原醫院

平町田町 (電一四番)

内科 小兒科 市原卯太郎
外科 梅毒、淋病 市原三三男

入院隨時

五月人形陳列

新與日本のシンボル!

弊店特製の太鯉のぼり大好評
皇月晴れの夜空に勇ましい鯉を翻へして日本男児の意氣を轟く五月節句が近づきました。弊店は逸早く尙武の祝に相應しい品々を豊富に取揃へ皆様の御來覽をお待ちして居ります。

- 大鯉のぼり (一間より七間迄) (御注文に應ず)
- 龍鐘 外職 (二巾、三巾、五巾等)
- 特撰武者人形 (箱入ケース入)
- 甲冑揃
- 御座敷職
- セツト (五圓より百五十圓迄)

進物用は一圓より取揃へてあります。

フクタヤ祝品部

平二丁目

菊地靴店

電話 六五九

平四 マルトモ内

紳士靴 婦人靴 學生靴

夏向白靴

各種取揃へてあります
自製注文靴は品質吟味……
期日迅速に……
御用命の程を……

上田外科醫院

平町南町

電話 一二九番

外科 専門

門科線光X

平町愛國婦人會

明日の總會

警女講堂に開く

伊藤知事夫人が臨席

平町愛國婦人分會では既報の如く明十四日午前十時から第一回會員總會を警女講堂に開催するが當日は縣支部より支部長伊藤知事夫人並金子主事が出席、傷痍軍人及遺族に慰問品を贈與する外別項の如く永年勤績役員表彰を行ふことになつた、尙午後一時からは愛婦本部講師薄田清女史の講演があるが講演が終ると各種の餘興があり盛會を豫想されてゐる、又今回の總會を記念し同會事業費へ五十圓以上を寄附した篤志婦人は左の二十五氏である

- △百圓寄附 三町目二六 久野ひさ 四軒町一四高 階ふみ△五十圓寄附 五色町四八阿部ちよ 一町目五酒井さい 古鍛冶町三山崎きよ 中町一三四 家むめよ 下河原四楡山 なほ 舊城跡一三青沼とも 白銀一三高柳はつ
- 同町一〇石島さだ 二町目五石川榮子 四町目二六猪狩しげ 紺屋町二一山崎さと 四町目四志賀さる 南町三一上田八重 鍛冶町一〇吉田とく 胡摩澤一一七櫻村こと 大町七諸橋ちよう 三町目一八久野きよ 三町目二

永年勤績

役員表彰

別項、明十四日の平町愛國分會總會で表彰される同會永年勤績役員左の通り
△二十四年紺屋町幹事山崎さん 田町同大橋昌子 南町同三井みき子 △十二年南町同清野きよ △十二年南町同傳登美子 田町同藤田みる子 町役場書記鈴木允

僅か六ヶ月間に

四千圓以上純益

菜種搾油工場良成績 栽培が益々擴大

石城販利組合の菜種搾油工場に於ける六ヶ月間の生産油は六萬九百二十一石(代金四萬二千七百七十圓)油粕四萬四千八百貫(代金一萬一千八百八十二圓)で決算の結果は差引四千三百四十圓の純益を見たので郡下の菜種栽培は益々擴大され更生指定村草野村等では本年度より各戸一反歩の栽培を計り村税戸數割七千圓をこの菜種代で充當する目論見であると

乗客は増し

収入減る

平驛の去月中の乗降客數は乗車が五萬九千五百五十三名降者は五萬八千四百一名で昨年同期に比し乗車が三千八百八名、降車が四千三百七十二名いづれも増加した

郵便年金

加入者勧誘

平郵便局の郵便年金加入者は現在二百四十七名で金額三萬七千餘圓を取扱つて居るが同局では去る十一日から五十名の新加入者を勧誘すべく係員總動員で募集に大奮である

桑樹黒皮購買 扶桑

試業會社は郡下から桑樹の黒皮を製糸原料として購入することとなり来る十六日同社の大平技術員が勿來町に乘込み現地購買を行ふと

盲啞學校協議

縣下盲啞學校協議會は来る廿日午前九時から平町警城訓盲院に開催される

集配手を増加

七月に入ると平局の郵便物は暑中見舞や中元の郵便物が殺到して毎年轉手古舞を演ずるので集配手一二名を臨時増員すると

苗代被害で

昭和入絹と折衝

縣農務課の調査が決定

(既報)錦村昭和人絹工場から流出する毒波から大事な田植を控へて錦村々内の苗代問題に對しては石城郡農會でも之が農民の收穫期に重大な影響を來す死活問題のため事件を重大視し縣農務課に依頼して調査を行つてゐたが愈々同工場の毒液被害に依るものと判明したため本十三日午後七時から錦村昭和人絹工場内に郡

梅雨晴れの体育界

軟式野球

本郡豫選

既報本縣體育協會主催縣下一般軟式野球大會本郡豫選は明十四日午前八時から平第一、平南兩球場で行れるが出場チームは左の如くである
平鐵道 隅田 湯本 小名 植田 勿來

警中水戸遠征

警中野球部は既報の如く明十四日午後七時水戸へ遠征、茨工及び水高と對戦するが早稻田野球部第二軍の田中マナーチヤーにコーチを受け進境著しいものがある、尙昨日の平商對試合は都合により延期された

警女庭球試合

警女庭球部は今日十三日放課後同校コートで平第一職員チームと練習試合を行つた

法曹團勝つ

平法曹團對平第一職員の野球試合は昨日午後三時から第一校グラウンドで行つたが六―三のスコアで法曹團が勝つた

法曹團相馬へ

既報相馬法曹團と一戦を交へる事になつた平法曹團野球部は明十四日午前四時小野マネヂヤ引卒の下に自動車

題に就いて第一次折衝を行ふことになつた

計時
高橋時計店
平町二丁目
・小役員募集委細面談・
安齊外科醫院
平町・田町
電話四七五番

梅雨晴れの体育界
平商野外教練 平商一年生約百名は今日十三日佐藤配屬將校及び麻原教官指導の下に好間村關ノ上方面で野外教練を行つた
平町人事
回死 亡
△播樋小路三〇 青木貢さん(一一)

夏初
『誰でも思ひのま、美しい寫眞が撮れる』
評判の……
東郷製 **メイコーカメラ**
五圓・七圓・十圓・十五圓・二十圓の各種
トウゴロカメラ特約店 いづみや玩具店
平驛前

平町南町五二一
根本婦人科醫院
(手術室完備) (入院隨時)
根本 莊次郎
根本 貞雄
電話三四番

殺人未遂の科前

札ビラを切り

巡查と大格闘

二百圓の出途が怪しい

意外の大物か

十二日夜十一時頃湯本町料理店、カフェー等を片ツ端から飲み歩き札ビラを切る男あるを同町駐在所の小島宗像兩巡查が舉動不審で引致せんとするや突然抵抗を始め街上で大格闘を演じた末検束したが

同人は、茨城縣多賀郡磯原町酒造業の伴瀧川茂(三三)と自稱し居るも申立に不審の点あるため取調べた

處瀧川とは真赤な偽り殺人未遂で去る昭和九年四月福島刑務所を

五ヶ年の刑を終いて

出所した東白河郡宮本村字論田村生葉谷紫郎(三三)と判明同人の申立に依ると去る六日二百圓の金を持つて双葉郡方面の田地を買ふべく途中赤井村赤井鑛泉に立寄り同日湯本町字桐畑の従弟藁谷丑松方を尋ねて七日まで宿り

磐崎村 大字上湯長谷姥之湯鑛泉に投宿、昨十二日夜八時頃湯本に出て来た

と云つて居るが前記二百圓の金の出途に疑問があり意外の大者らしいと不審の廉が多いので目下嚴重取調中

絢爛華麗な

大舞踊!

花柳界初て以来の

豪華版的催し

花柳門下の藝妓總出演

平町花柳界は藝道上のた二、三年前から花柳徳三郎師を迎へて以来、紅裾連が何れも素晴らしい進境を見せ昨年平藝妓總出演の第一回慈善舞踊大會を

開催して 収益を町の社会事業費に寄附したが本年も来る廿七、八の兩日午後五時から聚樂館に於て第二回の慈善會を開催する同大會には平藝妓總出演の

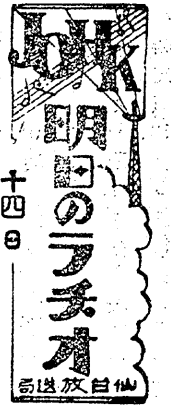
外東都よりは花柳徳兵衛、花柳徳之丞の兩師、清元小喜久太夫外五師匠、鳴物は望月左七社中の

替助出演 並にかつら衣裳師、顔師、大小道具師等を招く超豪華振りで平町花柳界初まつて以来、空然の絢爛目も綾な華麗さを豫想され盛んな前人氣を呼んでゐる、兩日の豪華番組は左の如し

△二十七日【初日】(清元)四季三番(小品舞踊)野崎小唄(長唄)越後獅子(小品舞踊)悲戀三態(長唄)多摩川(清元)玉兔(長唄)八島落官女(清元)吉野山(長唄)操り三番(清元)玉屋(長唄)連獅子 番外餘興

△二十八日(清元)四季三番(小品舞踊)野崎小唄(長唄)越後獅子(小品舞踊)悲戀三態(長唄)近江のお兼(清元)夕立(長唄)大原女(清元)鞍馬獅子(長唄)操り三番(清元)保名(長唄)連獅子 番外餘興

尚會員券は一圓で利益は平町社会事業費に寄贈する由



今晩も明日も南の風晴一時曇り

今晩の部

後六、〇〇 幼児の昔噺「したきりすじめ」オノナシクラブ
後六、二五 生活改善講座「時の尊重及び利用の實例」棚橋源太郎
後七、三〇 歌謡曲 小野巡 渡邊はま子
後七、五〇 尺八「二二三 鉢返調」山口四郎

替へ玉で四百圓

他人の戸籍を示した誘拐犯

二十三日に公判

誘拐犯人當時住所不定無職埼玉縣児玉郡賀美村生れ清水五郎(三三)は昨年十月頃東京市豊島區池袋一丁目五〇齋田アパートに止宿中親しくなつた同宿の伊藤春雄の戀人で當時千葉縣印旛郡成田町カネチー滿洲事夏海千浮方に女給してゐた東京市足立區本木町二丁目留次郎長女石井トヨ(一八)を甘言で

誘拐成田から豊島區西巢鴨町九三食堂に鞍替させた上十一月二十八日半町に連れ來り五丁目人事周旋業青木恒櫻を介し南町料理店龜屋専高橋トシ方に茨城縣新治郡林村上林茨原清三の三女トシ子(三三)の戸籍抄本示し同人と詐り賣飛ばし四百圓を騙取した事件は来る廿三日平支部で公判が開かれる

泥棒の上を行く

自宅裏に隠匿中盗る

内郷村大字高坂字高野日雇業鈴木清(三三)は同村住吉炭礦ズリ捨場から古鐵約二十貫餘を窃取、同村古物商鈴木善内方に賣込まんとした處を平署員に逮捕されたが去月廿日頃にも同炭礦機械場から炭車々輛一ヶ(價格

二十圓)を窃取し、盗品は他に賣却すべく自宅裏に隠匿中何者かに盗まれたと自供して、泥棒の上を行く泥棒があると係官を苦笑させてゐる

柔道大會變更

既報 來る二十一日相中道場で開

管絃樂「真夏の夜の夢」
前二、〇〇 日曜動行
前二、〇〇 日曜動行
前二、〇〇 日曜動行
前二、〇〇 日曜動行
前二、〇〇 日曜動行

オーケストラ(桃谷中繼)
後三、二〇 新日本音樂
後四、二〇 住吉神社御田
後四、二〇 住吉神社御田
後四、二〇 住吉神社御田

トラック正面衝突

幸ひ負傷者は出さぬ

湯本町驛前鈴木自動車部運轉手田代碩六(三三)は十三日午前七時半頃乗客一名を乗せたバスを運轉中平町に向けて内郷村大字御座字上宿地内國道を疾走中前方のりヤカーを避けんとして平方面より石材を満載してこれも疾走し来た小名濱町大字古港トラック業平野直安方運轉手萩光昭(三六)のトラックと正面衝突したが負傷者は無かつた

平職業紹介所報告

回 人を求める方
△出前持 廿才前後 尋卒 給料四、五圓
△材木運搬夫 卅五才迄 日給一圓五十錢
回 職を求める方
△精米夫 廿四才 尋卒
△トラック助手 廿才高卒
△荷上人夫 卅二 尋四修
△給仕 十七才 高卒
△事務員 卅三才 乙工卒

裁判一束

△双葉郡上岡村大字本岡字夜の森三三魚問屋泉真助(三三)は去る三月三十日無免許の元自動車運轉助手同郡富岡町大字小良ヶ濱字清水

繞る解瓦解の設人

(脚上脚上) 悟道軒圓玉(作) 丸尾至陽(書)



一四六 青木のなやみ
むかしの諺に濱邊の松と
奉行をたとへたことがある
直なるやうで曲らぬはなし
といふ悪口もある。

人間が人間の善悪をしら
べるは無駄なことである人
が申したが、神様が裁判所
にのぞんでしらべることが
出来ない、幕府時代として立
派裁判官もありました、我
々のために生活の保障をし
てくれる大岡越前守、また
は天保銭の名奉行遠山左衛
門尉、これらは人間味を主
として裁断いたしました。また
慶應年間の井上信濃守など
も人物でした、それゆゑ青
木に情を武器として白状せ
よと肉薄した、これが青木
にはつらい、また列席の大
目付神保伯耆守も武士道を
真向にふりかざしてこれま
たせめてる、この神保伯
耆守は幕末にはすぐれた
人物でした、屋敷は深川の
伊予橋にあつた、こゝへ上
野の戦事の時、國人ばかり
の幕臣が来てこれからきつ
て出る故あなたも御出陣な
さいといつた、伯耆守これ
を聞いて徳川家の御爲とあ
らば何時でも命はする、
先づしばらく休息して魂を

落ちつけるが、いゝとかう申
して茶を出してもてなし、
その時に家來にいひつけて
裏門前で三十挺の空砲をは
なした、その音におどろい
てこゝに居る者共はそれ官
軍が押しよせたと狼狽する

しまつた、そんな事實もあ
る、その伯耆守が青木を説
諭した、さて彌太郎は罪状
を白状したものか何うかそ
れともあくまで知らぬ存せ
ぬで通すか、自分の意志は
幕府のためにつくすつもり
であるが、行動が不正であ
るから捕へられて吟味をう
ける、池田播磨守は町奉行
といふ威権を振りまはして
白状をせまうことにござん
まで加へたさうなると此方
も意地で白状することは出
来ない、しかし今日のしら
べは人間味を有つてしとし



さまを見て
伯「各々と共に戦いのぞむ
ことは出来ない、幕府のた
め死ぬと決心した各々が鐵
砲の音で狼狽するやうでは
戦は出来まい、まあア屋
敷へ引き取り晝寝でもし幕
府全盛時代の夢でも見なさ
い、さアさア引き上げた
とかういつておひ出して

とせめよせる、ことに井
上信濃守も神保も知己であ
る、その知人が吟味をする
こゝは潔く白状して處刑を
うけやうか、ハテこまつた
な。

白状すれば士道はつづれ
てしまふ、さうかといふて
このまゝ押し通さうとして
も吟味が傑物としてのがれ
ることは出来ま

う間にかゝつた時に死んだ
ならばこんな苦痛もあるま
いに、生きていればこそか
ういふことにもなる、何う
して俺はあのごう間をきり
ぬけたか、生きてゐたはま
ことに残念だ、ハテ何うし
たものかと思案したが付添
の役人にむかひ

もえらい奴だといはれ、ま
た家名にきづのつくやうな
こともない。
それは攘夷のために徒黨
をくみ豪家から金を借上げ
たと申さうとかう覺悟した

とかう申し入れた、そこ
で湯を呑んでまづ心をおち
つけ

彌「あゝこまつたな、何ん
としてよいか、白状すれば
賊の罪をきて處刑をうける
それが残念だ、こゝはやつ
ぱり存じません知らぬで押
し通す方がよからう」
とかう決心した、付添の
お徒士目付が

目「青木、お奉行の御理解
を聞いて何う思ふ」
彌「有難く存じ居ります」
目「有難と感じたならば白
状いたせ」
彌「御意見は有がたく存じ
ますが覺えのないことはい
へませんよ」
かういつて笑つた、お徒
士目付も青木の剛情はにび
つくりした、そこで再び吟
味所に青木をつれ行く、こ
の時青木がまた考へた、賊
の罪にはおちまい、また賊
の汚名を着るやうな場合に
せまつたならば金を掠奪
したばかりでは道が立たぬ
金をとつたといへばたゞの
泥棒、ありふれた賊にはな
りたくない、こゝに立派な
罪名をこしらへてそれへむ
すび付けて行けば賊ながら

目「青木、お奉行の御理解
を聞いて何う思ふ」
彌「有難く存じ居ります」
目「有難と感じたならば白
状いたせ」
彌「御意見は有がたく存じ
ますが覺えのないことはい
へませんよ」
かういつて笑つた、お徒
士目付も青木の剛情はにび
つくりした、そこで再び吟
味所に青木をつれ行く、こ
の時青木がまた考へた、賊
の罪にはおちまい、また賊
の汚名を着るやうな場合に
せまつたならば金を掠奪
したばかりでは道が立たぬ
金をとつたといへばたゞの
泥棒、ありふれた賊にはな
りたくない、こゝに立派な
罪名をこしらへてそれへむ
すび付けて行けば賊ながら

目「青木、お奉行の御理解
を聞いて何う思ふ」
彌「有難く存じ居ります」
目「有難と感じたならば白
状いたせ」
彌「御意見は有がたく存じ
ますが覺えのないことはい
へませんよ」
かういつて笑つた、お徒
士目付も青木の剛情はにび
つくりした、そこで再び吟
味所に青木をつれ行く、こ
の時青木がまた考へた、賊
の罪にはおちまい、また賊
の汚名を着るやうな場合に
せまつたならば金を掠奪
したばかりでは道が立たぬ
金をとつたといへばたゞの
泥棒、ありふれた賊にはな
りたくない、こゝに立派な
罪名をこしらへてそれへむ
すび付けて行けば賊ながら

目「青木、お奉行の御理解
を聞いて何う思ふ」
彌「有難く存じ居ります」
目「有難と感じたならば白
状いたせ」
彌「御意見は有がたく存じ
ますが覺えのないことはい
へませんよ」
かういつて笑つた、お徒
士目付も青木の剛情はにび
つくりした、そこで再び吟
味所に青木をつれ行く、こ
の時青木がまた考へた、賊
の罪にはおちまい、また賊
の汚名を着るやうな場合に
せまつたならば金を掠奪
したばかりでは道が立たぬ
金をとつたといへばたゞの
泥棒、ありふれた賊にはな
りたくない、こゝに立派な
罪名をこしらへてそれへむ
すび付けて行けば賊ながら

干やなぎ
味美 鯉 節
当店特製

魚問屋 志盛 栄
平四丁目 電話二一三番

木村外科醫院
平町六丁目
電話三〇九番

上田病院
平町南町
電話二一九番

店主が店員
を連れて行く
か 食 堂
れ イ 食 堂
正 シ イ 食 堂
正 シ イ 食 堂
正 シ イ 食 堂

平・田町
レストサロン
電三五二番

五月 節句 御祝品 出賣

御座敷敷座御 御座敷敷座御
御座敷敷座御 御座敷敷座御

武者人形 陣道具 陣道具
陣道具 陣道具 陣道具

平町四丁目 スガノヤ提灯店
電話九五番

端午の節句御飾品一式
特價大賣出し

御座敷敷、布紙鯉、五月武者人形
陣道具類、別選白抜布鯉及附屬一式
例年の通り豊富に取揃へ、良き品を安く御得意
本位主義を以てドン／＼特價に可差上御一覽の
程を御待致します

陳列品中三尺緋緘鏡及勿來の關人形大函入
右品は特に御相談に應じます

落花生問屋
叶星號 加藤商店
平三丁目